

多様な子育て世代応援事業の展開

取組のあらまし

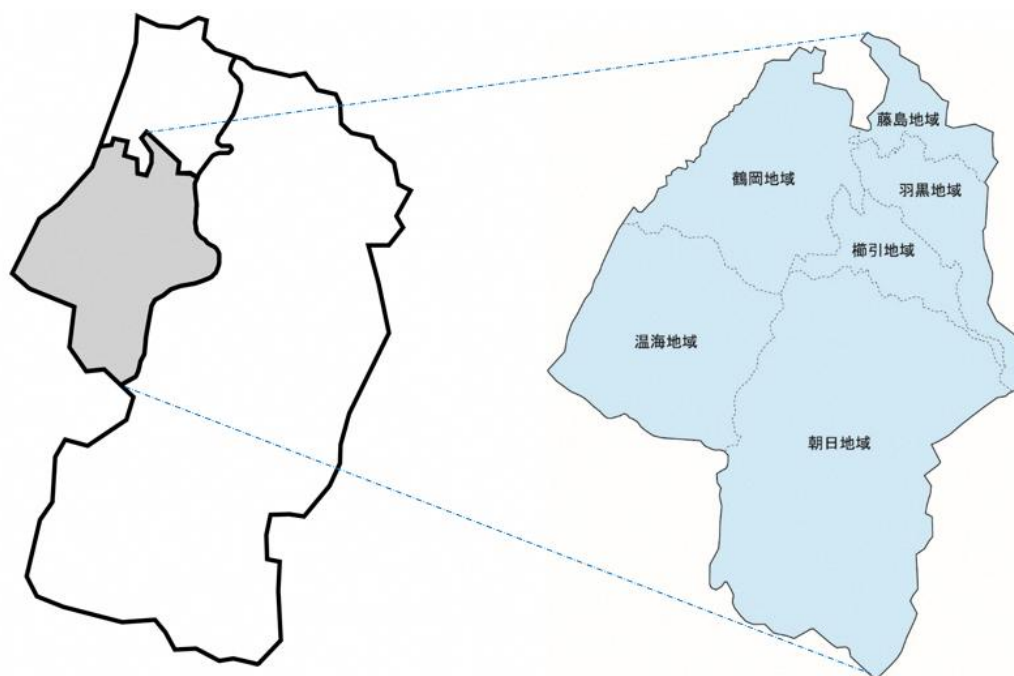
取組団体 山形県鶴岡市

取組内容 昭和30年から続く出生率の低下を問題視しており、令和5年の出生数は618人と前年比では横ばいなものの、減少傾向に歯止めがかかっていない。そこで、「安心して子育てできる環境づくり」を重要政策に位置付け、子育て環境の整備をはじめ、子育て世代を包括的に支援する多様な施策に取り組んでいる。また、温海庁舎が中心となって、SEL導入に力をいれ、「生きる力」の育成を通じた地域活性化を目指す。

1 山形県鶴岡市の概要

人口	116,731人	令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職員数	745人	令和6年4月1日現在（一般行政部門）
総面積	1,311.51km ²	令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 鶴岡市図



出所：鶴岡市 提供

2 取組の背景・目的

(1) 子育て支援に向けた社会的背景

鶴岡市では、少子化・若者流出への危機感を背景に、「若者や子育て世代に選ばれるまち」を目指した環境整備を推進している。市の人口は昭和30年（1955年）の約17.8万人をピークに減少を続け、平成27年（2015年）には約12.9万人まで減少している。特に出生数が年々減少しており、平成23年（2011年）に1,000人を下回り、平成30年（2018年）には30年前の約半数にまで落ち込んでいる。

令和5年（2023年）の出生数は618人と前年比横ばいであるが、依然として減少傾向に歯止めがかかっていない。こうした社会的背景から、鶴岡市は「安心して子育てできる環境づくり」を重要政策に位置付け、子育て世代を包括的に支援する多様な施策に取り組んでいる。

こうした中、若者に選ばれるための地元回帰施策として、高校生や大学等在学中の学生を対象とした地元企業見学会やインターンシップの実施、大学等卒業後に地元回帰した場合の経済的な支援を行う奨学金返済支援制度を令和3年度に創設している。

また、若者が結婚して子育てができるための環境整備に向けて、保育料・医療費・給食費など子育てに係る経済的負担の軽減、子どもたちのための自然体験を推進する「つるおか森の保育」事業、地域の人材を活用して郷土の自然や歴史、文化、産業などについて学ぶ教育活動など、地域ぐるみで次世代を育む環境整備に向けて「子育て世代応援事業」に取り組んでいる。

(2) 次世代教育 SEL に着目した定住促進

こうした中、市の中心市街地から25～45km離れており、最も少子高齢化が進んでいる温海地域（合併前の旧町）では、地方創生交付金事業を活用して、次世代教育に着目した定住促進を目指している。

具体的には、自分の気持ちを認識し適切に調整できる、他者の気持ちを認識し円滑なコミュニケーションがとれるなどの社会性のスキルと情動スキルを高め「非認知能力」「生きる力」、を育む教育を推進するSEL（Social Emotional Learning：社会性と情動の学習）に着目し、保育園児から小学校児童、中学校生徒まで一貫したこの次世代教育に取り組むこととした。

これによって、温海で子育てしたい、温海の教育を受けさせたいと保護者や地域住民が感じることで定住化を促進するとともに、取組を広く発信することによって、将来的には他地域からの移住につなげることを目指している。

図表 2 SEL の考え方



出所：鶴岡市 提供

(3) 「SEL 生きる力を育む教育」の特徴・取組

SEL を取り組むにあたっての、特徴的な取組は大別して3つになる。

1. 感情を「見える化」する EQ チェックイン

保育園では、毎朝、「EQ チェックイン」という活動を行っている。これは、喜び、期待、怒り、悲しみ、嫌悪、恐れなど基本感情を表す表情が描かれたカードの中から、その日の自分の気持ちに近いものを選び、その理由を話すというものあり、この活動は、子どもたちが自身の感情を客観的に見つめ、言葉で表現する練習の場となっている。

図表 3 EQ チェックインで使用するカード



鶴岡市提供

当該取り組みを継続することで、子どもたちには次のような変化が見られたとのことだ。

『・気持ちの表現が豊かに

保育士からは、「表情カードを使うことで、自分の気持ちをうまく伝えることができなかった子が、少しずつ今の気持ちを伝えられるようになってきた」「泣いていても、泣いている理由を表情カードを使いながら、言葉にできるようになった」という声があり、感情を言葉にする力が着実に育まれている。

また、特別な活動の前後にもチェックインを取り入れることで、楽しかった思い出の裏に、「友達と離れるのが寂しかった」という複雑な感情があることに子どもたちが向き合えるようになり、豊かな心の成長が見られると語っている。

・トラブル解決の第一歩に

子どもたちがトラブルを起こしたときも、「今までは先生が仲介に入っていたが、今は自分たちで解決する姿が見られる」「相手の気持ちを考えることができるようになり、お互いがとった行動の裏にある感情を伝え合い、共感することで紛争解決ができるようになった」と、保育士は子どもたちの自立的な問題解決能力の向上に驚きと喜びを感じている。』

このように、EQ チェックインは、自分の気持ちと向き合うだけでなく、他者への関心や共感力を育む効果も生み出している。

毎日のEQ チェックインは、子どもたちだけでなく、保育士にとっても重要な時間である。保育士も自分の気持ちと向き合い、感情を調整する力が向上することで、保育士間・保育士と子どもとの間に、お互いの気持ちを尊重し配慮する関係が自然と育まれている。

2. 豊かな自然体験を通じた学び：SEL 教育の一環

あつみ地域には二つの保育園がある。SEL 教育を深めるカリキュラムの一環として、地域の自然環境を最大限に活用した体験活動を取り入れている。

この取り組みには、以下の重要な狙いがあります。

・感性と情動を育む「体感」学習

自然の中で五感をフルに使うことで、子どもたちの感性（感度）を豊かにする。また、自然の美しさや厳しさが自分の気持ちに影響を与えることを肌で感じ、「情動は環境と深く結びついている」という大切な気づきを得る。これは、感情を認識し、調整する力の土台になる。

・社会の仕組みと繋がりを理解する

自然体験には、地域の一次産業（農業、漁業、林業）の体験も含む。

幼い頃から自然の恵みを受け取るだけでなく、それがどのように人の暮らしや「衣食住」を支えているのかを体験的に理解する。これにより、地域社会の営みや、人と自然の密接な関係に対する認識が深まり、社会性の基礎を築くことができる。

あつみ地域の豊かな環境を「生きた教材」として活用することで、子どもたちは、生涯にわたって不可欠な「生きる力」と「社会を理解する土台」を身につけていく。

3. 小・中学校の訪問指導

温海地域内には、中学校1校、小学校2校がある。この3校では、SEL教育を日々の教育に深く根付かせるため、定期的な教職員研修に加え、SEL教育アドバイザーが訪問指導を実施している。この訪問指導では、実際の授業の様子を拝見し、SELの視点から教員へ具体的なフィードバックを行う。先生たちがSELの実践に対する確信を深め、子どもたちの「生きる力」を育む指導をさらに充実させることを目指していく。

フィードバックは、以下の二点を軸に構成されていく。

・深い学びと自信を育む指導法

子どもたちが授業内容に高い関心を持ち、自ら考え、自信を持って課題に取り組み、学習の成果を共有し合えるようになるための具体的なヒントを提供する。これにより、さらなる深い学びへと子どもたちを導く。

・情動スキルと社会性を育む実践

道徳、総合的な学習の時間、学級活動といった時間において、子どもたちの社会性や情動スキルを効果的に高めるための具体的な指導のポイントや、教員からの声かけの工夫などについてフィードバックを行う。

3 取組内容

(1) 子育て環境整備の包括的施策

鶴岡市は、子育て世代が経済的な理由で子どもを持つことを断念することがないように、経済支援策を多角的に講じている。18歳未満の医療費完全無料化、第3子以降の保育料無償化、不妊治療や妊婦健診への助成、出産祝い金の支給などがその主な内容である。また、児童手当やひとり親家庭への手当など、国制度に基づく支援も提供している。

子育て支援の場としては、子育てひろばやこども家庭センターなど、妊娠期から育児期までを支える拠点を市内各所に整備している。ファミリー・サポート・センターによる一時預かりや送迎支援、ショートステイや病児保育の受け入れ体制も整備し、就労と育児の両立を

支援する。また、放課後児童クラブの老朽化対策や定員拡充により、放課後の安心・安全な居場所確保にも注力している。

加えて、令和5年度より「こどもの遊び場整備」に着手し、市民参加型の協議会やワークショップ等を通じて、屋内外の遊び場に関するニーズや改善点を把握し、「鶴岡市こどもの遊び場整備方針」の策定に至った。大型屋内遊び場「キッズドームソライ」の活用促進や、旧朝陽第二小学校跡地の活用による世代間交流拠点の整備構想も進行中であり、ハード・ソフト両面からの環境整備が図られている。

(2) 情報提供の工夫（ポータルサイト「すくすくつるおか」等）

市は、子育て情報を集約したポータルサイト「すくすくつるおか」を運営し、妊娠・出産から育児、教育、支援制度、施設案内まで一元的に情報提供している。年齢別に支援情報を分類し、関連手続きや担当課への案内も明記することで、利用者の利便性を高めている。

併せて、スマートフォン向けアプリ「つるおか子育てアプリ」も提供しており、妊婦健診や成長記録、予防接種スケジュール管理、支援制度やイベント情報の提供、さらにGPS連動による施設検索など、多機能な支援を実現している。紙媒体としては「子育てガイドブック『おおきなあれ』」を配布し、基本情報の周知も図っている。

図表 4 ポータルサイト[すくすくつるおか]



出所：鶴岡市 提供

こうした複数の媒体を通じた情報発信により、「知らなかったために支援を受け損ねる」ことを防ぎ、広報紙や SNS と連携した継続的な周知活動も展開している。

(3) 次世代教育の柱としての SEL 導入

鶴岡市では、非認知能力（社会性・情動面）に着目した教育手法「SEL（Social Emotional Learning）」を導入し、温海地域において令和2年度より本格実施し、米国における取組を参考にして「生きる力」の育成を通じた地域活性化を目指している。

幼児期においては、EQ チェックインという感情共有の時間を保育に取り入れ、子どもたちの自己表現や共感力の醸成に努めている。保育園で育んだ力を小中学校で継続・発展させるため、令和4年度より教職員研修を強化し、総合学習や地域活動を通じた SEL 実践を展開。米国シナプススクールで実践される SEL プログラムであるセルフサイエンスプログラムに精

通し、次世代教育の推進に尽力している日本 SEL 推進協会の理事、多重知能理論や芸術・デザイン分野の有識者を講師として招き、理論と実践の両面で支援している。

市は、伝統工芸「しな織」や特産品「温海かぶ」を題材とした情操教育にも取り組み、地域資源と連携した教育プログラムを構築。SDGs 未来都市として、こうした非認知能力の育成を地域活性化と結びつけており、将来的には市全体への展開を目指している。

令和6年度の研修では、参加者から「その子の個性に合わせて声をかけることで、強みを伸ばせるということが印象に残った」「これまではどうしても子どもの課題（欠点）ばかり目についていたが子どもの強みに目を向けて、認め伸ばす、それがその子全体（他の知能）を高めることにつながるという新しい見方ができそう。」等の感想が寄せられた。鶴岡市にある庄内藩の藩校「致道館」では、天性重視と個性伸長、自発的学習意欲の重視と自学・自修、会業の重視（小集団の共同学習による修学）、興味の喚起（興味・関心をおこさせるような細心の教育）を重した学びが行われていたとされ、これは現代の SEL そのものと言え、鶴岡市には SEL を導入する風土があったと考えられる。

図表 5 SEL の研修及び取組の様子



保育士研修の様子



自然と触れ合う活動の様子

出所：鶴岡市 提供

(4) 推進体制

施策推進にあたっては、子育て推進課を中心に、福祉、教育、保健部門が連携し、定期的に進捗確認と課題共有を実施している。特に SEL 導入に関しては、温海庁舎が中心となり、教育委員会や学校現場、福祉部門との協働体制を構築。地域の社会福祉法人「あつみ福祉会」も参加し、地域ぐるみの実施体制を整備している。

施策の基本指針として「第2次鶴岡市総合計画後期基本計画」や「つるおかしこどもプラン」が策定され、児童福祉審議会などによって評価と改善が行われている。市民参加型のワークショップや協議会も積極的に取り入れ、政策への住民意見反映を図っている。財源面では地方創生推進交付金など国・県の支援を活用し、持続可能な施策展開を進めている。

4 成果・課題

(1) 成果

ア 市民の子育て環境の改善

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない経済支援・各種保育サービス・相談支援体制の充実により、保護者子育て世代の経済的・身体的負担や心理的不安が緩和されている。また、ポータルサイト「すくすくつるおか」や子育てアプリ、広報誌での周知徹底により、市民の利用環境が着実に改善されつつあり、市民からも評価されている。

イ 地方創生における定住促進事例としての評価

SEL 導入の取組は、内閣官房の少子化対策事例集（令和4年版）に優良事例として掲載されている。地方創生の文脈で「教育の力で地域を活性化するモデル」と評価されており、鶴岡市への移住定住を検討する子育て世代からの問い合わせ増加や、他地域からの視察受け入れなど波及効果が期待されている。

(2) 課題

包括的な子育て支援策は子育て家庭の安心感向上には寄与しているものの、人口減少や少子化そのものを逆転させるまでの効果を上げるには至っていない。住宅・雇用施策や婚活支援策との総合的な取組によって結婚・出産から子育てまで一貫した支援体制を強化し、総合戦略の中で人口減対策を継続していく必要がある。

温海地域における SEL 教育については、SEL の理念と手法を理解した教職員や保育士の増強や、研修を受けた職員の異動による断絶を防ぐためのガイドライン・指導計画の整備が求められている。

関連・参考資料

鶴岡市公式ウェブサイト

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/>

鶴岡市【令和5年度版】鶴岡市の子育て世代応援事業一覧

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/kyoiku/hojyo/couen.html#:~:text=%E7%B5%8C%E6%B8%88%E7%9A%84%E6%94%AF%E6%8F%B4>

鶴岡市子育てポータルサイト「すくすくつるおか」

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/kyoiku/index.html>

鶴岡市「温海地域の小中学校教職員 SEL 研修を行いました」

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/shisei/shiyakusyo/infomation/atsumi/ikiruedu/atfukushi0120230118.html>

内閣府「地方創生推進交付金を活用した少子化対策の取組事例集」

https://www.chisou.go.jp/sousei/about/syoushikakoujirei/pdf/220408_syoushika_jirei_ver2.pdf